



創立152年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和7年 9月号

児童数377名 文責 澤村幸夫



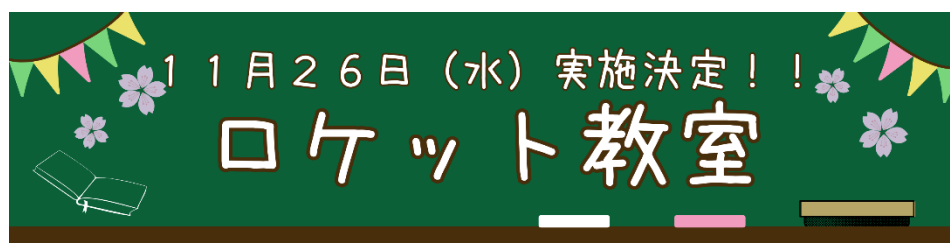
ヘチマ グリーンカーテン



酷暑・猛暑の夏休みとなりました。2023年7月に世界の平均気温が観測史上最高を記録する見通しとなったことを受け、国連の事務総長が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言したことから「地球沸騰化」という言葉が一般化してきました。地球が危機的状況にあることを強調するために、従来の「温暖化」ではなく「沸騰化」という言葉を用いています。子どもたちの夏休みは、本来、外で元気に遊ぶことをイメージしますが、「危険な暑さ」で、外遊びが思うようにできなかったようです。



校長室の外側には、4年生が育てている「ヘチマ」のグリーンカーテンがあります。ヘチマは、インド原産のウリ科のつる性一年草で、熟した果実を乾燥させてヘチマタワシに、若いうちは食用に、茎からとれる汁はヘチマ水（化粧水）として利用されます。また、暑さ対策として、昔からの知恵を使い、グリーンカーテンで室内温度を下げるができます。日光をさえぎるだけでなく、植物ならではの魅力がつまっています。緑の植物には、ストレスを軽減したり、緊張を解きほぐしたりして、心と体をリラックスさせる働きがあります。ここ和邇の地域も、自然豊かな土地であり、琵琶湖や野山、川や田畑など、四季折々の姿を見せてくれます。大地の恵みを存分に受け、「実りの秋」にふさわしい学習活動を展開していきたいと思ひます。



「どうせ無理」をなくしたい、「夢をあきらめない」ことの大切さを伝える活動を続けておられる植松努さんが手掛けられた、本物の「ロケット教室」を11月26日（水）の午前に実施することが決まりました。卒業をひかえた6年生が制作し、打ち上げを全校で見守りたいと思ひます。当日は、認定 NPO 法人くさつ未来プロジェクトの皆様にお手伝いいただきます。支えてくれる仲間がいること、失敗を恐れず、何事にもチャレンジしていこうとする気持ちを大事にしてもらうために実施します。自分のロケットだけ飛ばないかもしれない、という不安を持ちつつ、空高く打ち上がるはずのロケットを体験してほしいと思ひます。保護者や地域の皆様も、ご参観自由です。多くの皆様に打ち上げを見守っていただきたいと思ひます。保護者への案内は後日、配布いたします。



比良山麓子ども会議 7/30

志賀中学校区の5つの小・中学校から代表者が集まり、各校の取組を紹介したり、意見交流をしたりしました。他校の実践を知り、取組を進める上でのアドバイスを地域の皆様にいただき、それをヒントに2学期からの活動に活かしていければと思います。



PTA 清掃ボランティア 7/25



7月25日に、PTAの皆様の呼びかけで、清掃活動をしていただきました。保護者とともに子どもたちも大勢参加してくれました。

いつも十分掃除できていない廊下や教室の窓ふき等をしていただき、たいへん綺麗になりました。暑い中、参加してくださいました皆様、ありがとうございました。

大津っ子未来会議 7/31

7月31日には、「大津っ子未来会議」が開催され、全校を代表する3名の児童が参加してくれました。



同じ会場の中学校の取組、小学校の取組の発表を聞き、質問や意見交流をしました。「いじめを起こさないための各校の実践とその活動に込められた思い」を知り、2学期からの活動に大いに参考になりました。

PTA 図書室開放 8/22,27

夏休み中に、子どもたちの読書や宿題の場所を提供しようと、PTA 役員の皆様が図書室開放をしてくださいました。久しぶりに出会った友だちと充実した時間を過ごすことができました。



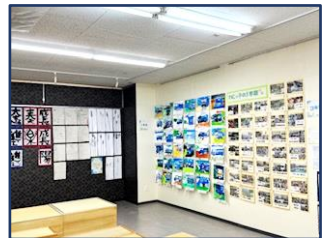
PTA 夜の学校校舎内スタンプラリー

8月3日に「和邇ふれあい夏祭り」が開催され、PTA「夜の校舎内スタンプラリー」が企画されました。約160名の小学生たちが参加してくれました。カードに書かれた4つのスタンプを集め、おみやげをゲットしました。途中、わにっこりに出会ったり、お化けに出会ったりして、楽しい夏のひとときを過ごしました。



わにっこギャラリー2025 夏

子どもたちが1学期に取り組んだ作品を、多くの皆様に見ていただこうと、8月1日から8月27日まで、平和堂和邇店2階のギャラリー都千本で展示させていただきました。心温まる感想をいただきましたので、その一部を紹介します。



- ◆1年生から6年生まで、みんな心のこもった作品でとっても癒されました。
- ◆ゴミ収集車が本物みたいでした。背景も上手。
- ◆1つの学年の中でもいろいろな作品があり楽しませていただきました。製作コーナーがあるのもいいですね。毎年の楽しみになっています。
- ◆全ての作品が見ていて楽しかったです。5年生の作品の麦がとても上手で、1年生の紫陽花が可愛らしかったです。次回も楽しみです。
- ◆ステキな作品がたくさんありました。みんな細かいところまでしっかり描くことができ、すごいなと思いました。来年も楽しみです。
- ◆なかなか学校ではゆっくり見ることができないので、わにっこギャラリーはいつも楽しみです。
- ◆虹色のパフェがかわいかった！
- ◆体験できるところもあり、とても楽しかった。作品をきれいに飾られていて、思い出を振り返ることができて最高だなと思った。
- ◆低学年の「すてきなはんかち」「シャボン玉アート」は絵の具の色や形の偶然を楽しみながら作品を作っておもしろい、まさにアートだ！！



第6弾 「子どもの気持ち」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。未来をたくましく生

きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第6弾は、「子どもの気持ち」です。大人はつい、子どもの間違った行動を変えようと、「正論」を話していきませんが、子どもたちに「大人の正論」が届かないことが多いようです。私はこれまで、多くの小学生の本音を聴く機会がありましたが、多くの子どもたちの実際の言葉に「私たちは、わかってくれようとする気持ちが一番うれしいんです」というものがあります。子どもたちが本当に変われるのは「正しいことを言われたときよりも、気持ちをわかってもらえたと感じたとき」です。

私たち大人は子どもを導こうとすると、つい「大人の正論」をふりかざしてしまいがちです。「約束はまもらなきゃ」「勉強しないと将来困るよ」「そんなことしちゃダメでしょ」「努力をしないでどうする!」よく使うこんな声かけは間違っています。社会を生きていくために必要なルールであり、知恵でもあります。しかし、そのような言葉は子どもの心には届きにくくなっています。むしろ反発を招いたり、無視されたりする場合があります。これは、子どもの発達と心理が深く関わっているからです。



学校のポリプテルスセネガルス
本文との関連はありません。

子どもは、感情や衝動をコントロールする力が未熟で、論理的な説明よりも、感情が先にたつことがほとんどです。したがって、大人からの正論は、子どもにとって単に「自分が否定された」「責められている」という気持ちになります。例えば、転んで泣いている子どもに「泣いてもしかたないでしょ」と言ったところで、子どもの心の痛みにはまったく届いていません。子どもが必要としているのは理論ではなく、感情に寄り添ってくれる言葉と存在です。「痛

かったねー」と声をかけると、子どもの反応は一変します。自分の気持ちを理解してもらえたという安心感から、泣き止んだり、自分から立ち上がろうとしたりするのです。共感とは、相手の立場に立ち、感情に寄り添うこと。正論が頭脳に訴えかけるのに対し、共感 は直接心に届きます。

子どもが問題行動を起こしたとき、多くの大人は即座に「それはダメ」と制止したくなります。もちろん危険な行為や他者を傷つける行動には制止が必要です。しかし、その前に「なぜそうしたのか」「どんな気持ちだったのか」を理解しようとする姿勢が重要です。共感を基盤とした関わりを続けていくと、子どもは大人に対して「自分を理解してくれる存在」と認識するようになります。このような信頼関係があると、子どもは「心を開きやすくなり」「大人の言葉に耳を傾ける」ようになります。

では、具体的にどのように共感を示せばよいのでしょうか。ヒントとして、「まず話を遮らずに聴く」「感情を言葉にする」「否定しない」「目線をあわせる」「解決を急がない」などがあると思います。

共感 は単なるテクニックではありません。子どもを一人の人間として尊重する姿勢の表れです。共感してもらえる経験は、子どもに「自分は価値のある存在だ」という自己肯定感が高まるのみならず、他者にも共感できる大人に成長します。日々の小さなやりとりの積み重ねが、子どもの心を育み、将来の人間関係の土台を築き、やがては世界の平和にもつながっていくものと確信しています。



学校のアルジイーター
本文との関連はありません。